

実れ復興の綿花

東北コットンプロジェクト

（H・I・K）の「ヴァンスク
選手ら9人も
綿花栽培にはどうしても
手が必要だ。東日本大震
オーレ仙台」（仙台市宮城
野区）は支援団体の一つ。
今年から植栽、収穫に協力

中ボランティア

（フリーラ）の「ヴォスク
オーレ仙台」（仙台市宮城
野区）は支援団体の一つ。
今年から直哉、又幾と協力

島市の「赤坂農園」で綿花栽培にボランティアとして参加した。

△工縫い付け
チーム関係者の多くも震
災の強い揺れを体験してい
る。中島さんは「東北以外
で生まれ育った人もいる

社部分。今季からプロジェクトのロゴマークが縫い付けられている。通常なら年間数百万円のスポンサー料が発生する位置。貴重な収入の場を無償で提供した。

六〇

8月19日 一赤坂農園

下、炬の除草などに汗を流した。震災直後、全国の学校が被災地での社会科見学に重点を置く中、同校はいち早くボランティア活動に

津波で骨組みだけとない建物に、震災の重い現実を知る。そして畑で力強びる綿花に復興の歩みを感じる。生徒は、自分が作られた綿花で作られたタヌを受け取る日を楽しみにしているという。

善意の輪 宮城内外に

災の復興支援事業「東北コットンプロジェクト」は生産農家だけでなく、多くのボランティアに支えられていく。

している。

業には選手ら9人が参加してくれた。チームの運営会社役員に、プロジェクトに参加する阿部蒲鉾店(仙台市)の幹部がいたことも追い風となった。

が、津波に見舞われた沿岸部の打撃は人ごとではない。チームとして復興に力を入れたい」と強調する。ヴォスクオーレ仙台ツツ

プチームのユニホームの左

支援の輪は教育現場にもだけではない。被災地に根差して戦う意味をチーム全体で共有しつつある。



ヴォスクオーレ仙台のミニ本
た。プロジェクトのロゴマーク

ホーム左袖部分に縫い付けられ

が復興の経費を優しく負
み込んでいる。